令和４年度第３回秩父市総合教育会議　議事録

期　日	令和 5 年 3 月 23 日（ 木曜日 ）
時間・場所	15 時～16 時 22 分・秩父市役所本庁舎４階　第１・２委員会室
出席者	北堀市長、前野教育長、松本教育委員、山中教育委員、大島教育委員、浅海教育委員 市長室長、市長室専門員兼総合政策課長、市長室専門調査員、総合政策課主査 教育委員会事務局長、教育委員会事務局次長２人、教育委員会専門員兼教育総務課長、教育研究所長、学校教育課長、保健給食課長 傍聴者なし
会議内容	○市長挨拶 ・今年度最後の総合教育会議である。 ・3 月 13 日から国・埼玉県において、「マスク着用」の考え方が見直された。これに伴い、市でも国・埼玉県の指針に準じた扱いをすることとした。職員のマスク着用については、個人の判断にゆだねることを基本としている。しかし、高齢者等重症化リスクの高い方への感染防止の場面などでは、マスク着用を推奨していく。 ・現在、新型コロナウイルス感染者の陽性者は減少傾向にあるが、引き続き、効果的な換気、手洗い等の手指消毒など、基本的な感染防止対策への取り組みを行っていただき、体調にはぐれぐれもご留意いただきたい。 ・子ども達は、この３年間、ほとんどマスクをしている。マスクを外すことに関して学校教育の現場の中で、必要に応じて、心のケアも必要だと感じている。 ・また、新しい感染症が出ることも考え、新たな対策の必要もある。 ・新たな環境の中で、個人的にフィンランドの教育が大変気になる。批判的思考を持った民主主義という意識で、なぜ、どうしての疑問を持ちながらそれの解決に向かっていくという教育。自らを高めることができる。一人一人がなぜ、どうしてを考えながらやっていくことが必要。今の日本の教育の場では、それが欠けていると思う。特に研究者を見てもらえると、壁にぶち当たったときには、なぜを模索している。子どもの頃から、教育習慣の中で取り組んでいく。本日の議論が将来にとって、良い教育の材料の一つになることを願いたい。 ○教育長挨拶 ・学校の卒業式は、15 日の中学校、22 日の小学校が無事に終わった。卒業式においては、児童・教職員はマスクを外すことを基本としたが、外せない子も相当数いた。長期間のマスク着用のため、強いることはせず、児童生徒の自主的判断によるものとした。 ・令和４年度も 24 日が修了式となる。解決困難な大きな課題となっていることもなく、終わろうとしている。 ○議事

	(1) 令和５年度　教育関係の主要事業について 資料１について教育委員会事務局笠原事務局長より説明 ・主要事業７件について説明。 （市長） ・大規模改修は、南小学校と尾田蒔中学校は、老朽化に伴い、長寿命化が必要となっているため、ご理解いただきたい。 ・ランドセルの補助金は、マニュフェストであるため、現物給付にこだわりはあるが、令和５、６年度の補助金交付とすることになっている。 ・荒川幼稚園は、対象者がいないため、何度か地権者との交渉を行う中で、原状回復して返却することになっている。 ・学校給食費は、国の無償化の動きがある。45％補助のうち、保護者からは55％の負担をお願いしているが、国の状況を見極めながら判断していきたい。と同時に所得が低いことによる貧困の問題がある。特に中小零細企業は、給与格差が出てくる。雇用確保も難しい大きい問題と感じる。 ・萩平歌舞伎舞台は、私が県議会議員時代に、一度茅葺の葺き替えをした。県の指定であるが、今回は、県と交渉して費用の２分の１を県が負担することとなっている。金額の妥当性は不明であるが、茅葺葺き替え職人が少なくなっていることから、言い値になってしまっているが、やるしかない状況がある。 ・緑の少年団は、令和７年度の全国植樹祭において、緑の少年団が主役。市内小中学校には入ってもらっているが、秩父郡市含めて依頼してある。皆さんに苗を育ててもらって、天皇陛下に植樹していただく。また、部活動の謝礼については、少しでも学校の負担軽減に役立てもらいたい。 （教育長） ・全体の予算が決まっている中で、教育関係予算に割いていただき感謝する。 ・以前も学校の大規模改修工事を行ってきたが、それによって校舎が明るくなり、雰囲気が変わって、きれいな校舎で気持ちよく学校生活が送れていると聞いている。また、きれいな校舎をいつまでもきれいな状況で保っていく。掃除を一生懸命やることによって、きれいに保たれている。 ・ランドセル補助金は、4月11日に入学式があるが、この補助金を使って購入したランドセルを多くの子ども達が背負ってくることになるだろう。 ・旧荒川幼稚園は、なるべく早くということであったが、来年になった。 ・学校給食費の公会計化も長い間の懸案であった。今回やっと45％補助が実現したが、周辺４町が無償化になってしまったので寂しい気持ちがある。児童生徒数が少ないと割と簡単にこのようなことが実施できるのではないか。今後国の無償化の動きにも注目していきたい。

	・萩平歌舞伎舞台は、屋根材が腐らない前に葺き替えを行って歌舞伎が盛んになると良いと思う。 ・緑の少年団については、各学校でどんぐりを植えてもらっている。機運を高めていくことで緑化推進の計画を立てて、各学校で秩父の豊かな自然をさらに長続きさせてほしい。さらに学校周辺の敷地もきれいになっていければ良いと思う。また、部活動については、なかなか進まない状況がある。指導者の育成や指導者としての責任の割に費用支払いが少ない問題がある。 （松本委員） ・給食費の無償化は、国の予算が付けば秩父市として実施するのか。 （市長） ・付けば実施する。付かなければ実施しない。付かない場合には、あと5%上げる予定である。 （松本委員） ・小鹿野町は現在 40 人を切っているため、少なければ、やりやすいのかと思う。子どもが減っているという話ではなく、子どもを育てる親が少ない。20、30 代の人がいない。なぜ住まないかというと、仕事がない。気に入った仕事がないことが原因である。20、30 代の人が増えるような施策を打ってほしい。そのあたりを色々と考えていただきたい。 ・文化財補修の負担割合は、県が２分の１、残りの２分の１について４分の１ずつを市と受益者が負担すると思うが、どうなのか。 （事務局） ・関係者が高齢化、資金がないため、市長の英断として、市が約２分の１を負担し、地元でも少し負担することになったという経緯がある。 （松本委員） ・緑の少年団は、子ども達や保護者に負担がないように進めてほしい。 ・大規模改修の問題。学校は、快適な気持ち良い場所でないと、気持ち良い思考は生まれてこないのではないかと思う。 （山中委員） ・少子化が身近で深刻な課題として受け止めている。私の子ども達の代は、外に出てしまう方が多く、戻ってこない傾向がある。逆に東京から来る若者は、地域や田舎に興味を持ってくれる若者もいると実感している。そのような方々を上手く受け入れ、地元の活動も取り組んでいけたらと思う。それが地域活性化につながる。それが、子どもの増加にもつながると感じている。 ・限られた予算の中で、教育関係の予算をいただいていることは、ありがたいことである。 ・学校の大規模改修などは必要な支出だと感じている。 ・学校給食費は、給食費は当たり前であったと感じていたが、子育てをしていく保護者の責任として、保護者が支払うことは良いと感じていたが、世の中の流れで、地域ごとに差が出てきていることが、今後どうなのかと感じる部分もある。将来的には、子ども達に差がない形で無償化になれば良いと思っている。 ・文化財保護は、職人を育てていく意味でも非常に大事なことだと感じている。

	・緑の少年団は、各学校の負担にならないように各学校が継続していっていくことが望ましい。 （大島委員） ・大規模改修は、子どもの数が減っている中で、色々な施策を打ってもこれから子どもが増えていくことは難しい。緩やかにそれを実現していくか、長い目でなるべく費用をかけない形で、人数に合わせた形で少子化に目を向けて、様々なことを繰り返して、縮小していくことも考えなければいけない。 ・ランドセルの補助金は、街中の保護者名簿を見ても母の名前が記載してあり、この補助は非常に助かっていると思う。令和５、６年度やってみて、それ以降を考えるステップ・材料になると思う。 ・萩平歌舞伎舞台の修理は、一度にやった方が安い費用で済むのではないか。 （事務局） ・茅が調達できないことや長時間、職人を留めておくことが難しいという問題がある。 （大島委員） ・緑の少年団については、天皇皇后両陛下がお見えになり、植樹をするための準備だと思う。天皇陛下は、大人には国の象徴としての存在と理解できるものの、子ども達にとっては、ぼんやりとしかわからないと思うので、植樹祭に向けての機運を高める一つとして、この緑の少年団の活動は、教育面でも非常に有効だと思う。 （浅海委員） ・部活動の地域移行についてのみ発言させていただく。部活動は、相手に敬意を払うことや尊敬の念を持つことができる、日本の教育の一つとしての誇りである。部活動が、一定の役割を果たしていくことにも繋がるので、その火を消してはいけないと思う。 ・一方で、教員希望の生徒達にとって、部活動が、不安材料の一つになっている。保護者対応、インクルーシブ教育にも不安を抱いている。今後は、モデル地域の設定などを考えていただき、地域の協力を得ながら成立する形を取っていただければありがたい。 **(2) 小中学校におけるSDGｓ教育について** <u>資料２について教育委員会事務局飛川所長より説明</u> （市長） ・SDGｓのすべてを理解することは難しい。実行するためには、先生方によく理解していただきたいと思っている。 ・中には付いていけない子ども達もいると思うが、どの程度の子ども達が理解して、実行しているのか。学校だけではなく、家庭でも実践してほしい。一方的に子ども達にやらせるだけでは意味がないと感じている。 ・大変なテーマだと思っているが、一つ一つのテーマを見ていくと、それぞれ意見があり、価値観が変わってきているんだろうと感じている。議論をしていくことが大事なことで、反対意見をすべて否定することなく、学校の先生、PTA、子ども達が一緒になって考えていくこ

	とが大事だと思う。 ・行政側も教育側も達成目標を図表で可視化することも大事だと感じている。 ・PTA の方々の価値観が異なることが問題だと感じている。なかなか一つにまとまるのは難しい。 （松本委員） ・2030 年までの目標ととらえて、もっと身近なテーマで取り組んだ方が良いと感じている。例えばジェンダーの問題。親の世代の方々は、男らしさ、女らしさという価値観があった。ランドセルを例にとっても、男児が黒、女児が赤という考え方。現在は自ら選べることが良いと思う。食事に関しても、女性が作るのが当たり前という時代があったが、現在は男女共同で作る。 ・高齢者の方が、これらの内容を理解しなくてはいけないのではないかと感じている。看護師は男性がやっていたり、バスの運転手も女性がやっている。子ども達の世代の方が、我々の世代より良く取り組めている。 ・先生方と一緒に子ども達が取り組んでいることが大事だと感じている。理念として、子ども達には差別や貧困を協力して無くしていこうとイメージ。環境分野は特に取り組んでいるが、矛盾がないように伝えていく。授業では、社会科や総合的な学習の時間などに、積み重ねていくことが大事だと思う。 ・孫に尋ねると、SDGｓという言葉を知っていた。続けていくことが大事だということを孫を通じて教わった。 （山中委員） ・私も言葉は知っていたが、その内容までは理解が不足していたと感じたため、子ども達も本当に理解しているのか疑問に感じる。 ・目標として挙げると難しいが、普段の学校行事の中で自然とやっていることが結びついているのだと、改めてわかった。目標の達成を可視化することが大事だと思う。 ・自らが子育てした際に、子ども達が電気使用料のチェックを気にしていたことも SDGｓに結びついていたのだと感じた。子ども達の目線に立って、子ども達自身も理解した上で、地域に広がっていければ良いと思う。 （教育長） ・子ども達、行政、民間、学校それぞれでやれることが分かれるのではないか。経済成長の目標は、学校の中では就労して税金を納めることぐらいしか教えられない。例えば、広域のごみ袋が 1 枚 110 円する。ごみ袋の容量にできるだけ詰め込んでいるのも SDGｓ。 ・ジェンダーの問題は、また、女子の制服にスラックス使用が吉田中学校、第一中学校に採用される予定。 ・一人一人が自らが SDGｓでできることを調べて、発表などを通じて、共有していくことが大事である。17 全てを取り組むことは難しい。まずは、教員がこのことを理解して、子ども達へ教えていくことが大事。 （大島委員）

	・導入しやすいところから取り組んでいる内容が、気づいてみたらSDGｓに取り組んでいたという状況になっていると思う。尾田蒔中学校のタブレットの取り組みは素晴らしい。また、ネットの中では、正しいものも間違ったものも載っている。いざ、子ども達が自ら調べて発表すること。こども達が自ら考えて発信することが重要。 ・自らの社員にも教育するルールを作っていかなくてはいけないと感じている。子ども達にとって身をもって体験することが何より大事だと感じている。 （浅海委員） ・昨年度まで高等学校に勤務していた。SDGｓについては、総合的な学習の時間にSDGｓの取り組みを行っていた。 ・尾田蒔中学校以外で一番多いのが目標11。地域を題材にして活動しようとすることが多かったと思われる。次に多いのが目標15。その次が目標12。先生方も身近な話題に触れて目標を掲げていって、SDSGsに合致してやっているんだと子ども達に認識させることが重要だと感じる。また、大人も同様に理解して、認識しながら取り組んでいってもらえればと思う。 ・学校は、授業が削られたり、先生方の負担が無いように進めていければと感じている。 （市長） ・その他にご意見は。 （大島委員） ・中学校の女子スラックス導入については、もしスカートが本当に嫌な子にとって、配慮したデザインになると良いと思う。 （松本委員） ・子ども達がSDGｓ活動に取り組むことによって、その取り組みは、SDGｓだということを先生が意味付けてあげることが大事だと感じている。 （事務局） ・学習指導要領の中にもSDGｓという言葉があるわけではなく、活動に伴ってSDGと結びついていることを理解させることが大事だと認識している。 〇閉会 以上